

H30福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組一覧

※効果検証対象事業は平成29年度実施事業分、担当課は平成30年度担当部署

平成30年12月

※番号○囲みは平成29年度地方創生拠点整備交付金・推進交付金対象事業（3事業）

人口ビジョンにおける将来推計等	直近の人口		(H27国調)	58,781人
			H30.4.30時点	63,738人
	将来の人口		2040年	2060年
	(社人研推計人口)		44,600人	34,700人
	(目標人口)		67,000人	—

				基準値	KPI達成状況		
基本目標Ⅰ	地域資源を生かした魅力あるしごとづくり			数値目標 市内総生産 1,150億円(H31)	1,130億円(H24)	1,246億円 (H27時点)	
	基本的方向	番号	取組内容	重要業績評価指標 (KPI)			担当課 交付金活用状況
	1 農業・水産業の振興	○1	新たなまちづくり組織の設立	—	—	設立準備中 (H29)	まちづくり推進室 加速化・拠点整備
		2	福津産品の販路開拓	新たな販路の開拓数：10箇所	—	開拓数：2箇所 (H29)	まちづくり推進室 先行型
		3	地産地消の推進	—	—	—	地域振興課
	2 商工業の振興	4	空店舗等の活用	空家・空店舗等実態の把握：調査完了(H27) 支援を受けた事業者の新規出店者数：15件	—	調査完了 (H27) 新規出店者数：5件 (H29時点)	地域振興課・都市管理課 先行型
		5	創業支援体制の充実	支援を受けた事業者の新規創業者数：50人	—	新規創業者数：11件 (H29時点)	地域振興課
		6	企業相談窓口の充実	—	—	—	まちづくり推進室
	3 雇用の創出	7	企業誘致	—	—	—	まちづくり推進室
		8	就労支援	—	—	—	まちづくり推進室

基本目標Ⅱ	地域の活力と賑わいのあるまちづくり			数値目標 観光入込客数550万人(H31)	492万人(H25)	562万人 (H28)	
	基本的方向	番号	取組内容	重要業績評価指標 (KPI)			担当課 交付金活用状況
	1 地域資源を活用した観光の振興	9	新たなまちづくり組織の設立 (再掲)	—	—	設立準備中 (H29)	まちづくり推進室 加速化
		10	「食の街道」事業の推進	—	—	—	地域振興課
		11	着地型観光商品の開発	着地型観光商品の開発：3件	—	開発件数：3件 (H27)	地域振興課 先行型
		○12	新原・奴山古墳群の活用	—	—	—	文化財課 先行型・加速化・推進
		○13	津屋崎千軒の観光活性化	—	—	—	まちづくり推進室 推進
	2 市内交通体系の再構築	14	公共バス路線の再編	コミュニティバス利用者数：100,000人	85,000人 (H26)	利用者数：88,486人 (H29)	まちづくり推進室
	3 エネルギー政策の推進	15	電力循環の効率化	—	—	—	まちづくり推進室

基本目標Ⅲ	安心して出産・子育てができるまちづくり			数値目標 合計特殊出生率1.55(H31)	基準値1.49(H25)	合計特殊出生率：1.62 (H28)	
	基本的方向	番号	取組内容	重要業績評価指標 (KPI)			担当課 交付金活用状況
	子育て支援の充実	16	保育料の軽減	保育所待機児童数：0人	・保育所待機児童者数（法定）：66人 (H27.10)	・保育所待機児童者数（法定）：72人 (H29.10)	こども課
		17	保育所における防災対策の実施	アンケートにおける保育所に安心して預けることができる旨の回答：肯定的回答が否定的回答を上回る	・アンケートにおける保育所に安心して預けることができる旨の回答：—	・アンケートにおける保育所に安心して預けることができる旨の回答：93% (H27)	こども課 先行型
		18	妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援	児童センター・子育て支援センター	・児童センター・子育てセンター「なかよしサロン」利用者数：50,211人 (H26)	・児童センター・子育て支援センター「なかよしサロン」利用者数：52,797人 (H29)	いきいき健康課
		19	子育て支援情報の発信	「なかよしサロン」利用者数：56,500人			こども課 先行型
		20	病児保育の充実	年間病児保育利用者数：1,000人	257人 (H26)	利用者数：1,201人 (H29)	こども課
		21	子育てしやすい地域づくりの推進	—	—	—	まちづくり推進室

平成 30 年度地方創生効果検証会議の検証結果について
(平成 29 年度実施事業分)

1. 地方創生効果検証会議について

この会議は、「福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「戦略」という。）に基づき、戦略の確実な推進を図るため、外部有識者から戦略に対する施策展開、効果検証等の意見聴取を行うものである。

効果検証会議メンバー（以下、「会議メンバー」という。）は、以下 5 名の外部有識者で構成される。なお、会議メンバーについては、複数年度に渡る戦略の取り組みを継続的に検証することが望ましいことから、過去 2 回の会議メンバーに引き続き、効果検証を依頼し、協力していただいている。

■外部有識者・会議メンバー（順不同、敬称略）

所属	役職等	氏名
(株)西日本シティ銀行	人事部付部長	芹野 千佳子
西南学院大学	経済学部教授	近藤 春生
行政経験者	元県職員	富安 節子
いんどり真愛保育園	園長	安德 尊博
(一社) 福津市観光協会	会長	高島 亮一

■効果検証会議の概要

開催	時期	概要
第 1 回	平成 28 年 7 月	地方創生先行型交付金事業の検証※
第 2 回	平成 29 年 8 月	地方創生加速化交付金事業、戦略全体の検証
第 3 回	平成 30 年 6 月	地方創生拠点整備交付金事業、地方創生推進交付金事業、戦略全体の検証

※地方創生先行型交付金事業については、地方創生先行型交付金交付要綱第 3 条 3 項の規定に基づき、国に外部有識者の評価を踏まえた検証内容を報告する必要がある、また、平成 28 年度の効果検証会議開催時においては戦略策定から 4 ヶ月しか経過していないことから、先行型交付金事業に限っての検証を行った。

2. 平成 30 年地方創生効果検証会議における外部有識者意見のまとめ

取組内容ごとに各担当課が評価シートを作成し、会議メンバーに事前配布し、会議当日の意見交換および効果検証シートを後日提出していただいた。

2-1. 地方創生拠点整備交付金事業について（平成29年度実施事業分）

①あんずの里ふれあいの館活性化事業

■評価・意見等

戦略の KPI 達成に対して当事業が「有効である」と、会議メンバー全員が評価。
（以下、個別意見）

●事業全体に対する意見

- 「道の駅むなかた」という強力な競合者の出現により、売り上げ高は増えていないものの、地域商社取り組み拠点のインフラ整備は十分行われたと考える。直販所施設の一体化、駐車場拡張、トイレの新設などは利用者目線に立った改築事業であり、また、生産者が納入しやすいストックヤードの確保や六次産業化を見据えた加工、流通につながるエリアの設置等も地域農業活性化の観点から評価できる。
- 現時点では、十分に成果が表れているとはいえないものの、今後のポテンシャルを考慮して評価した。しごとづくり、地域の稼ぐ力につながる可能性を持つ施策という点では重要性は否定しないが、現状としては近隣施設との競合等があり、集客増、売り上げ増につながっておらず、残念ながら成果が出ているとはいえない。
- 改修は直売所機能や流通機能の強化に繋がるのみならず、施設そのものが大きな観光資源。ハード改修だけではなく、多様な販売商品や売り場のレイアウト、イートイン機能等についても検討をお願いしたい。施設の活況が地域商社の成功と他からイメージされると関係者間で共通認識を持ち、協力して取り組み続けることが重要。
- 近年は利用者数、売上の減少に加え、前年度は工事の影響もあり更に減少しているが、改築工事及び大型車両駐車場の整備等により多くの方々の利用が期待される。

●今後の展開に対する意見

- 課題としては、「あんずの里」リニューアルの十分なPR（マスコミ、SNS等）、及び世界遺産関連施設等、市内観光スポットからの回遊性の確保（観光バスルート確保、モデルルートの告知）あるいは「道の駅むなかた」との協働（共通クーポン、SNS活用等）模索等による、来訪者と売り上げ増加策があげられる。
- 利用者アンケートを取るなどして、利用者や住民のニーズにマッチしているか、マーケティング等を行い、戦略の立て直しも検討すべきである。
- 28年度の産業実態調査及び自立性調査の結果を踏まえ、29年度には市やアドバイザー、関係団体代表者からなる地域商社設立検討会議を発足させたのは大きな成果。これまでは農業分野と漁業分野の代表者達が組織として経済の活性化等に向け連携し議論を重ねてきたことはなかったと思うので、検討会議のメンバーの方々が鋭意議論を重ね合意形成に取り組まれたことは高く評価したい。また、地域商社が設立されることにより市の農業や漁業そのものも活性化され将来への希望も見出されるので、直接の血筋でなくても後継者の出現は可能と思われる。
- 関係団体の合意形成により地域商社が設立されたことは今後の追い風となり、更に各分野の特徴を活かし合える仕組みづくりが期待される。また、他の事業との連携、連動により、更に活発的になっていくことを期待している。
- 地域商社の取り組みを早く行い、何がほしいか、他との差別化を図り、流通を強化し、売上増加を目指してほしい。

2-2. 地方創生推進交付金事業について（平成29年度実施事業分）

①世界文化遺産登録を契機とした福津市観光振興

■評価・意見等

戦略の KPI 達成に対して当事業が「有効である」と、会議メンバー全員が評価。
（以下、個別意見）

●事業全体に対する意見

- 関係者のご尽力により、世界文化遺産登録ができたことは、地域としては誠に喜ばしいことであった。
- 世界遺産登録によって観光客が増加しており、観光客へのもてなしの充実という点では一定の意義がある。ただし、観光客数が増えることだけを目的としてよいかは疑問が残る。観光客が増えていても、地域経済への波及効果はいま一つ見えにくい。
- 「古墳群」という特性のアピールが重要、宗像市の世界文化遺産と差別化するには「古墳群」の内容や文化的価値について情報発信することが重要である。福津市外や福岡県外から集客するには、パンフレットの配布に加えてどのような方法があるのかの検討も必要である。
- 世界遺産に登録されてから関心は非常に高くなり、来訪者が増えている。
- 公共の交通手段が悪く、シャトルバスの運行案内等分かりにくいところが多々ある。

●今後の展開に対する意見

- 今後は古墳の発掘調査、当時の風景再現とあわせて、AR（拡張現実）機能を活用して、スマホをかざせば現在の風景に当時の風景、人物等が重なって見えるアプリ製作等で、この場所に来なければ見られない風景をつくり、SNS等による集客につなげていただきたい。近隣の「あんずの里」への回遊ルート、双方向の誘導を充実させる必要がある。
- 関連施設だけではなく、地域の観光拠点等に立ち寄ってもらうなど、より滞在時間を長くするような工夫を考える必要がある。そのためには、シャトルバスをはじめとする観光客の利便性を高めたり、情報発信したりすることが必要。
- 分かりやすい交通手段等の説明が必要。ふくつミニバスやシャトルバスを利用するにも時間帯がよく分からないなど、観光して回るには市外からの方々には難易度が高い。タイムスケジュールも含めてプランを提供し、集客力を高めてはどうか。
- 今後更に、歴史や世界遺産について知っていただくために、様々な方法で発信していくこと。また来訪される方々の交通網の利便性や充実、そして宗像大社等の関連施設との観光コースなどが、更に充実されていくことを期待する。体験型古墳ゾーンや上空見学など、何かしら体感できる仕掛けがあれば、更に面白味が増すと思う。
- VR等の活用により、より分かりやすい案内ができればと思う。県、宗像市との連携を強化し、来訪者を増やしてほしい。

②津屋崎千軒観光活性化事業計画策定業務

■評価・意見等

戦略の KPI 達成に対して当事業が「有効である」と、会議メンバー全員が評価。

(以下、個別意見)

●事業全体に対する意見

- 津屋崎千軒の景観の中心である豊村酒造建造物の歴史的文化的価値が、本事業の調査で詳細に明らかになったことは、地域の文化財保護の観点から非常に意義深い。
- 観光資源の発掘を行うことで、今後の福津市の観光活性化につながる可能性を持つ事業として評価できる。ただし、当該地区を観光地として育てていくためには依然として課題も多い。
- 豊村酒造建造物保存対策調査及び煙突現地調査の成果の確認、これらの調査により、津屋崎千軒内の観光施設の核となる豊村酒造建造物等の歴史・文化的価値が明確になり、今後の観光活性化において大きな弾みになったと思う。
- 津屋崎千軒観光活性化について、シンボルとなる煙突の保存方法や手段について経費が明らかになったことは、今後の方向性を定める大きな手がかりになってくる。

●今後の展開に対する意見

- 観光活性化の観点からは、煙突だけ残しても意味がなく、建造物全体の保存には莫大な費用（10 億円超）がかかるため、宿泊機能付加を含めて、事業としての実現可能性を詳細に検討する必要がある。その上で、莫大な費用を投じて保存すべきか、歴史的価値としての調査記録の保存にとどめるか、将来的価値も考慮して検討すべきである。参入事業者があれば、ギャラリーの整備等、文化財的価値の保存には市として協力しながら、事業採算性は事業者主体で取り組む役割分担の明確化が必要である。将来に禍根を残さぬよう、文化的にも財政的にも、観光活性化面でも、最適解（それぞれに妥協点を見つける）を導く必要がある。
- ただハコモノとして立ち寄ってもらうだけでなく、宿泊・飲食施設の整備、人が集う場所づくりを通じて、多面的に地域を発展させることも検討する余地がある。
- 観光活性化にはハードだけではなく、酒造関連の飲食機能やお酒を活用した商品も重要となるので、現地の NPO 法人を中心として関係者で検討していただきたい。
- 他の事業の繋がりを強化し、宿泊機能、小売業、食などについて充実していき、日本国内はもちろん、世界から来日された人々にとっても、ジャパニズム・フクツイズムを感じることができるハッピーな空間にデザインして欲しいと思う。
- 津屋崎地域の観光の核となるよう、津屋崎千軒全体の開発ができるよう、今後保全調査及び経済波及効果等の検証を行い、観光交流の拠点となればと思う。

2-3. 福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略全体に対する評価

①「基本目標Ⅰ：地域資源を生かした魅力あるしごとづくり」

(以下、個別意見)

●全体について

- 福津市における将来のしごとづくりにつながる施策を多方面から進めていくという点で重要な施策が含まれていると評価する。ただし、もう少し縦割りを排し、施策間の連動も必要なのではないか。
- 観光～受入・滞在～交通網など全ての分野が連動しているので、全てを並行して総合的な計画を作成段階であると思うが、軸を何にするのかを決定することがとても重要になってくる。文化的遺産、文化的建造物、福津の文化継承、農業・水産業の充実など、この取り組みは人々に喜びが生まれ、暮らしの充実にもつながると思う。

●農業・水産業の振興について

- 今後、設立予定の地域商社との十分な連携を図っていただきたい。

●商工業の振興について

- 各取り組みと雇用の創出に関する取り組みと、それぞれ関連性が高いため、個別の施策として独立して行うのではなく、例えば企業支援施策、雇用創出施策として、まとまりを持って実施することでより効果が得られると考える。
- 空店舗等の活用は、27年度の空き家実態調査等で得た結果をデータベース化し、それを元に28年度には国土交通省の「先駆的空き家対策モデル事業」として所有者調査が採択され、一斉調査が行われたことは大きな成果である。加えて、「法務と連携した所有者調査マニュアル」「空き家に関するガイドブック」の作成、条例改正と多角的に成果を出したことも大変素晴らしい。

●雇用の創出について

- 企業誘致は、短期的な目標を達成するうえでは有用かもしれないが、基本的には近隣自治体とのゼロサムゲームである。どれだけのエネルギーを割くかにもよるが、地域経済全体のパイを拡大する施策に注力したほうが良いと考える。

②基本目標Ⅱ：地域の活力と賑わいのあるまちづくり

(以下、個別意見)

●全体について

- 一般企業との連携により、更に福津が活性化すると期待する。福津のオリジナルブランドが開発されていることはとても魅力的だと思う。今後も、様々なセクションの方々との共同企画や開発により、更に福津ブランドが充実していくことを期待。

●地域資源を活用した観光の振興

- 食の街道と着地型観光商品は、現時点では十分に成果が上がっているとは言い難いように思われるが、今後の福津市への観光需要を掘り起こす可能性がある。
- 「福津からの贈り物」の様な食品ギフトセットが作られ、福津市民も気軽に県外の知り合いに送ることができるシステム等についてあれば、情報発信の一つになる。

●市内交通体系の再構築

- 高齢者等の交通弱者が安心して市内で生活できる公共交通の整備は喫緊の課題である。また、利便性における地域間の格差の緩和にもつながる。
- 地域住民の生活のしやすさに関わる公共バス路線の再編は、普段かつ地道に見直しを行うことが肝要と考える。
- 公共バス路線の再編、西鉄バス路線から外れた地域では、車を運転できない者又は車を持たない者にとって買物や通院などの日常生活にとっても支障をきたしている。高齢に伴い自動車運転免許の返納が必要な人が多くなればなるほど、この状況はますます拡大するであろう。また、市の観光活性化にとっても細やかな交通網の整備は喫緊の課題である。速やかな地域公共交通網形成計画の策定を期待する。

③基本目標Ⅲ：安心して出産・子育てができるまちづくり

(以下、個別意見)

●子育て支援の充実について

- 東福間地区をモデル地区として今後施行されていくように、地域の高齢者の知見等の人的資源を子育て支援に活用していく互恵的取り組みを、ぜひ地域住民のアイデアを取り入れ、他の地域にも広げていただきたい。
- 各取り組みは、例えば出生率を高めるなどの特定の指標の改善に結びつかなくても、安心して子育てできる環境を整備するという点で意味があると考ええる。とはいえ、各施策が各種指標にどのような影響を与えるのか、他の要因と区別して、ある程度科学的な手法を用いて、政策評価を行うことも今後の施策を考える上（政策の取捨選択）で重要である。また、利用者数だけで測るのではなく、利用者の満足度も考慮すること、各施策において高齢者を活用することも検討してよい。
- 子育てしやすい地域づくりの推進、東福間駅周辺においては下水処理場跡地等の公的不動産の活用や民間の閉店している大型スーパーの建て替え促進等大きな土地の活用チャンスがあり、東福間駅周辺の賑わい再生に大きく期待している。子育て家族を受け入れるための住宅地の再生に取り組むとのことであり、子育て家族が交流できるスペースが確保されるような地域デザインにしてほしい。
- 保育料の軽減措置については、子育て家庭にとってはとても助かっている。また、防災対策、切れ目ない支援等についてもご家族の安心感を生んでいると思う。福津市はとても住みたいまちとしても人気を呼んでいるが、その分、両親ともに働く家庭も増える傾向にあり、そのため、乳幼児施設など子ども達を受け入れる施設の充実も必要になっている。暮らしやすいまち＝働きやすいまちとしても、ハード面の充実はもちろん、その一翼を担う人材確保するための対策や定着するためのソフト面の対策についても必要だと感じる。